

I. 一般目標 (General Instructional Objective)

一般内科医としての素養を身につけ、血液内科医・腫瘍内科医としての専門的な知識と技術を修得する。がん患者の薬物治療を経験し、治療目標、治療効果、副作用の管理、緩和治療などの支持療法を理解する。

II. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives)

1. 症状・徴候を判断し鑑別診断に役立てることができる。

- ・発熱(不明熱・日和見感染を含め)
- ・リンパ節腫大
- ・肝脾腫大
- ・出血傾向
- ・白血球增多症
- ・白血球減少症
- ・貧血
- ・多血症
- ・血小板減少症
- ・血小板增多症など

2. 診療に必要な診察法、検査に習熟し、その臨床応用ができる。

- ① 自ら実施し、結果を判定評価することができる。
 - ・内科としての診療 問診、全身の理学所見、鑑別診断の考え方
 - ・血液末梢血の見方
 - ・凝固系検査の解釈
 - ・DICの管理
 - ・画像診断(胸部レントゲン、超音波、全身CT、MRIなど)の臨床応用
 - ・感染症の治療(日和見感染症まで含め、抗生物質、抗真菌剤、抗ウイルス剤の適正使用)
 - ・輸血の適正使用について
 - ・経静脈的栄養管理について

② 指示・依頼を行い、または指導医のもとで実施し、結果を判定または評価できる。

- ・中心静脈カテーテル確保
- ・骨髄穿刺 骨髄生検
- ・胸水・腹水、髄液検査
- ・悪性腫瘍の診断・治療に関する病状説明・インフォームドコンセントの実験を経験する
- ・臨床試験、治験の実験を経験する

3. 抗がん剤治療の基礎的事項に習熟する。

- ・抗がん剤の作用機序を理解する
- ・抗がん剤の安全な投与方法、血管確保の原則を理解する
- ・抗がん剤の副作用およびその予防・治療法を述べるができる
- ・発熱性好中球減少症に対応できる

III. 方略 (Learning Strategies)

病棟・外来でのトレーニング、学会参加(スライド作製、発表、症例報告など)、カンファレンスなど

IV. 経験できる疾患・手術など

1. 主な血液内科疾患

- ・急性骨髄性白血病 急性リンパ性白血病 骨髄異形成症候群
- ・慢性骨髄性白血病 真性赤血球增多増加症 本態性血小板血症 骨髄線維症
- ・悪性リンパ腫 多発性骨髄腫
- ・鉄欠乏性貧血 再生不良性貧血 溶血性貧血
- ・特発性血小板減少性紫斑病 血栓性血小板減少性紫斑病 出血傾向 DIC

2. 造血幹細胞移植

- ・造血幹細胞移植、骨髄採取、移植免疫

V. 評価 (Evaluation)

Minimum EPOC、症例発表による自己評価・指導医評価。
指導医・看護師などによる形成的評価。

VI. 指導者と研修施設

- 1. 診療部長 長藤 宏司
- 2. 指導責任者 毛利 文彦
- 3. 指導医 毛利 文彦
- 4. 研修施設 久留米大学病院

VII. 週間予定

月	8:30	病棟
	17:00	病棟カンファランス
火	8:00	症例カンファランス
	9:30	病棟回診
	17:00	抄読会
水	8:30	病棟
	18:00	病理検討会 (月1回)
木	8:30	病棟
	16:00	病棟カンファ
金	8:30	病棟 研究会など
土	8:30	病棟

